

実質化された人・農地プラン（飯富地区）

市町村名	対象地区（集落）名	作成年月	直近の更新年月日
水戸市	飯富 (柳河、国田、飯富、渡里)	平成24年 8 月	令和5年5月1日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積(ha)	1560.3
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者または耕作者の耕作面積の合計(ha)	887.8
※ 回答率(②/①)	56.9%
③ ①のうち地区内における75歳以上の農業者の耕作面積の合計(ha)	449.0
i ②のうち後継者のいない農業者の耕作面積の合計(ha)	103.6
ii ②のうち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計(ha)	70.3
⑤小計(i + ii)	173.9
④ ②のうち地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計(ha)	328.90
⑥地区内で後継者がいないか不明の推計面積(ha)(⑤/回答率)	305.6
⑦中心経営体による、地区内の後継者がいないか不明の推計面積カバー率(④/⑥)	107.6%

2 対象地区の課題

飯富（プランの全域）については、5年後も概ね担い手が確保されているものの、国田地区において不足が懸念されるため、基盤整備事業の推進等により、中心経営体である認定農業者等の営農効率化が必要と推測される。

柳河地区における農地の集積・集約に関しては、農業者及び農地所有者、関係機関等の連携により、畑総事業、柳河中部土地改良事業との整合のもと推進することが求められる。

飯富地区（集落）においては、担い手確保のための耕作条件の改善のため、基盤整備事業の活用が必要である。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

地区（集落）名	国田
原則として中心経営体である認定農業者が中心となった農地利用を図り、必要に応じて入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進する。また、今後のさらなる農地集積の促進及び担い手の営農効率化のため、基盤整備事業の活用に向け、地域の協議活性化を図る。	

地区（集落）名	柳河
原則として中心経営体である認定農業者が中心となった農地利用を図り、必要に応じて入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進するが、今後の農地の集積に関しては、農業者及び農地所有者、関係機関等の連携により、畑総事業、柳河中部土地改良事業との整合のもと推進することが求められる。また、中心市街地に近く、近郊農業として新規就農者が入作しやすい地区となることを目指すとともに、地区内における産地育成を視野に入れた担い手の確保、収量・品質のさらなる向上を目指す。	

地区（集落）名	渡里
原則として中心経営体である認定農業者が中心となった農地利用を図り、必要に応じて入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進する。	

地区（集落）名	飯富
原則として中心経営体である認定農業者、集落営農組織を中心に、地域農業の維持・継承に向けた農地利用を図り、必要に応じて入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進する。また、進入路の狭い農地が多く、今後の農地の担い手確保のためには耕作条件改善のための基盤整備が必須であり、農地所有者等を交えた協議の推進を図る。	

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

市、農業委員会の連携のもと、地域において話合いの中心となる農業者の状況などの把握に努め、土地改良事業実施地区、農業多面的機能の農地維持活動地区、農地中間管理事業モデル地区などのエリアを中心に、各地区の状況に応じ、農地所有者、耕作者、地域住民及び関係機関等による、農地の集積・集約に係る話合いの活性化を図る。
市、農業委員会、中間管理機構等関係機関が連携し、貸し付け意向のある農地が中心経営体へ円滑に配分されるよう、貸し付け意向の情報共有等の体制整備を検討する。